

京都産業大学 一般入試対策講座
(国語)

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

日本語はもともとタテ書きでした。活字を使って印刷するときも、タテ組みでした。けれども明治になって、ヨーロッパの文化の影響を受けると、日本語をヨーロッパの言語と同じようにヨコ書きにしたり、ヨコ組みにしたりする傾向が生まれました。たくさんの数字や数式や構造式などが入る、数学や物理や化学の教科書あるいは論文などは、日本語の部分をタテ組みにすると、読むのにタテにしたりヨコにしたりわずらわしいので、全体をヨコ組みにするのにもそれなりの合理性があるといえましょう。日本語で加入者の姓名・住所をまず見つける電話帳がヨコ組みになっているのは、電話番号を読みとるところに目的がある以上当然ですが、この場合日本語の部分が文法的にきわめて単純なものであることも、確認しておきたいと思います。

ところが、学生はノートに講義の内容をヨコ書きにする、その手もとにある学術書は多くがヨコ組みになっている、という状態の中で、こんどはタテ組みよりもヨコ組みのほうが本質的に合理的なのだという^{A1}「理論」を持ち出して日本語の印刷物はすべてヨコ組みにすべきだと主張する人びとがあらわれました。これらの人びとは、まず人間の目玉の解剖学的な構造を持ち出します。人間の目玉はヨコに二つならんでいるではないか、だからヨコ組みにすれば一目で多くの文字が見えるわけで、したがってヨコ組みのほうがタテ組みより読みやすいはずだ、とその^{A2}「理論」を展開していきます。もっともらしく聞えるがどうもおかしい、現にタテ組みに比べてヨコ組みのほうが読みづらいことは事実であって、納得できないと、たくさんの人びとは自分の経験からこの^{A3}「理論」に拒絶反応を示しますが、^B目玉「理論」をふりかざすヨコ組み論者は、習慣の結果そんな気がするのだとか、はじめからヨコ組みは読みづらいと思いつているからその心理的な影響なのだとか、読みづらく思う理由を読み手の側に押しつけてしまいます。さらに、タテ組み⇨保守的、ヨコ組み⇨革新的ときめつけるような、傾向もあらわれました。

もし、右の目玉「理論」を、チェスタートンの探偵小説に登場するブラウン神父に聞かせたら、彼はおそらくこういでしょう。“Not always.”（いつでもそうだとは限りませんよ。）

そして私はそれにつけ加えるでしょう。

「見えすぎでは困るといふこともありますよ。」

問二

傍線部 A 1 ～ A 3 で、筆者が「理論」にかぎカッコをつけたのはなぜか。最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

- 1 この理論に他とは違う独自性があることを示すため。
- 2 この理論が理論と言えるものではないことを示すため。
- 3 この理論が他から引用されたものであることを示すため。
- 4 この理論にある程度の妥当性があることを示すため。

問三

傍線部B「目玉『理論』」について説明したものとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 人間の目は縦方向よりも横方向のほうが動かしやすい構造になっているので、タテ組みよりもヨコ組みのほうがより多くの内容を短時間で読み進めることができる。

2 人間の目は横に二つ並んでいるのでヨコ組みのほうがタテ組みよりも解剖学的に理にかなっており、読むときの理解も早く、たくさんの文字を追いやすい。

3 人間の目が横に二つ並んでいることで縦方向よりも横方向のほうが多くの情報を得ることができるので、ヨコ組みのほうがタテ組みよりもより多くの内容を理解できる。

4 人間の目は横に二つ並んでいることで縦方向よりも横方向のほうが多くの文字を瞬時に知覚できるので、ヨコ組みのほうがタテ組みよりも字を拾いやすい。

日本語のヨコ組みが読みづらいのは、ヨコ組みにするということそれ自体に原因があるのです。読み手にはなんの責任もありません。これは言語理論的にチャンと説明できるのです。

目玉「理論」には、二つの大きなまちががあります。その一つは、文字を見るとということと言語として読むということとをいっしょくたにして、見えたから読めたのだときめてしまっている点です。そしていま一つは、ヨーロッパの言語と日本語とは性格がちがっていて、それが活字の組みかたにもあらわれているのに、そのことをまったく無視している点です。

活字の印刷物は、目で見るから「C₁見る表現」であるかのように思っている人も多いのですが、これは「見る表現」ではなくて「C₂読む表現」です。物語を読みたいなら、線条的に長く長くつながったかたちの印刷された文字を、自分で視線を動かしてつぎつぎと読んでいかなければなりません。本のページを一目で見たところで、それでは読んだことにはならないのです。「見る表現」のときには、カメラの視線は動いても観客の視線のほうは動きません。野球をテレビで見ると、ホームランのときにはカメラが動いてスタンドへとびこむ打球を追いかけたり、走塁する打者を追いかけたりしますが、観客のほうはブラウン管に視線を固定して画面の動きをそのまま見ているだけです。ところが、「読む表現」のときには、読み手が視線を動かして文字をつぎつぎと読んでいかなければ、物語が進行しないのです。それも、文字の上にとただ視線をすべらせて見ていけばいいのではなく、その文字の中に単語を区別し、その単語の意味を読みとりながら、単語の平面的なつながりの背後にある立体的な書き手の思想をつかむという、精神的な作業をすすめなければなりません。この作業が妨害されると、読みづらいつと感ずるわけです。

問四

傍線部C1「見る表現」とC2「読む表現」について説明したものとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 見る表現ではテレビカメラの動きを追って視線を動かすだけでいいのだが、読む表現では文字の上に視線をすべらせて単語の意味や複雑な文のつながり、さらに書き手の思想までも立体的に認識しなければならない。

2 見る表現ではテレビの画面を見るときのように視線を一点に固定して動かす必要はないが、読む表現では読み手が自分で目を動かして文字を読み進めていくことで文の背後にある書き手の思想を正確に読み取ることができるといえる。

問四

傍線部C1「見る表現」とC2「読む表現」について説明したものとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

3 見る表現ではテレビの画面を見ているときのように視線は画面に向けているだけでいいが、読む表現では主体的に視線を動かして単語の意味とそのつながりを認識し、背後にある書き手の思想を理解しなければならない。

4 見る表現ではテレビの画面を見ているときのようにカメラの視線は動いても観客の視線は画面に固定されるが、読む表現では視線を上下左右に動かすことで文の背後にある書き手の思想を立体的につかむことができる。

D
このことで、いま一度、さきに示したブラウン神父のこ
とばをふりかえって見てください。英語のときには、二
つの単語ですみます。けれども、同じことを日本語で語
ろうとすれば、一〇の単語をならべることになります。

この例はすこしキョク⁽¹⁾ダンですけれども、日本語には
話し手・書き手の気もちを直接にあらわす主体的表現に
属する単語がいろいろあって、それらを組合せて思想を
展開する習慣になっているために、どうしても単語の数
が多くなるのです。また、一つの単語が一つの文字から
成立している例は、英語ではきわめてすくなく、指を
折って数えるくらいしかないのに、日本語ではこの短い
文でも、一字語が「だ」「と」「は」「ん」「よ」と、
使われている単語の半数を⁽²⁾シめていることに、注意
してください。

問五

傍線部D「ここで、いま一度、さきに示したブラウン神父のことばをふりかえって見てください」から始まる文章で述べられている日本語の特徴を説明したものととして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 一文字の主体的表現を表す単語で自らの考えを表明し、英語と違ってあいだを空けずに文字と文字を組むので、印刷を工夫しても英語の倍近い単語がつまっている。

2 一文字の単語や主体的表現に属する単語が多く、英語と違って単語と単語のあいだを空けずに表記するので、同じスペースでも英語の倍近い単語がつまっている。

3 主体的表現と一文字の単語がたくさんあり、英語よりも単語と単語のあいだのスペースが少ないので、同じ内容の箇所文字をつめ込んでも英語の倍近い単語の数になってしまう。

4 主体的表現と一文字の単語が思考の在り方を決定し、英語よりもあいだを空けずに単語を並べるので、文字の大きさにかかわらず英語の倍近い単語の数になってしま

問一

傍線部(1)～(3)の片仮名の部分と同じ漢字を使うものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

(1)キョクタン

- 1 タン|セイを込める
- 2 タン|シヨを開く
- 3 ヒタン|にくれる
- 4 病人をタン|カで運ぶ

(2)シ|めている

- 1 セン|セイジュツに頼る
- 2 物事をセン|サクする
- 3 ショウカ|センを開ける
- 4 セン|チャを出す

英語の印刷物では、単語と単語とのあいだをはなして、空間をとって組んでいます。日本語の印刷物では、あいだをはなさずに単語をベタベタと密着させて組んでいます。これも言語の性格のちがいから生れた組みかたのちがいなのですが、空間をとってないばかりでなく一字語がたくさん使われているために、同じスペースをとりあげて比較してみると、日本語の印刷物のほうが英語の印刷物よりもはるかに多くの単語がつまっています。イギリスで出版されているペーパー・バックのポケット本を、日本のポケット本である文庫版と比較してみましよう。英語では約一〇語入っているスペースに、文庫版の8ポイント活字では約一八語と、ほとんど二倍に近い単語がつまっています。したがって、文庫版をヨコ組みにすると、英語にくらべて二倍に近いたくさんの単語が、いっぺんに視野に映ってくることになります。

文庫版で読んだ小説を、9ポイントとか5号とかもつと大きな活字を使って組んだ本で読みなおしたら、読みやすく楽しかったという経験を持つ読者もあるでしょう。なぜ読みやすいのかといえば、大きな活字でハッキリと目にうつるからだ、これまでは説明されてきました。しかしそれだけではないのです。大きな活字を使ったために、視野に映ってくる単語の数がすくなくなり、そのときに読む必要のある単語以外が視野から追い出されることになるからです。そのときに必要なのは、一つの単語を区別してその意味をとらえ、それ以前の単語の意味とむすびつけて思想の立体的な構造をつかむことなのですから、必要もないそれ以後の単語が否応なしに視野に映って来て追い出せないということは、読むという作業がつねに妨害されているということの意味しています。

単語の区別や意味の把握や思想の立体化は、経験をつんでいっただけに特別に意識することなく、パツパとすすんではいきますが、同じように特別に意識することなしに、作業がつねに妨害されているのを、E読みづらいという感じで受けとることもなるのです。一字語の意味をつかんで、さらにつぎの一字語の意味とむすびつけて思想を立体化しようとするときに、視野にいつでも四語も五語もが映ってくるのでは、読む楽しみが傷つけられてしまいます。

問六

傍線部E「読みづらいという感じで受けとることもなる」のはなぜか。最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 一度に視野に映る単語の数が多いと、そのときに読む必要のない単語まで目に入ってしまう、書き手の思想を理解する行為が無意識に妨げられてしまうから。

2 ヨコ組みにすると、そのときに読む必要のある単語が限定されてしまうので、書き手の思想の立体的な構造をつかむのが難しいと感じてしまうから。

3 ヨコ組みにすると、一度に目に映り込む文字数が人の処理能力を超えてしまい、読む作業が無意識に妨害され読むのが面倒になってくるから。

4 視野に入る文字数が多くなると、単語の区別や意味をつかむ作業が困難になり、読む分量が多くなればなるほど読むのが楽しくなくなってしまうから。

この、視野に映ってくる単語の数が多いと読みづらくなる問題は、タテ組みでもヨコ組みでも共通して存在します。私は樋口一葉の作品が好きですが、文庫版では読みません。明治四十五年に出版された、5号活字で組んだ全集版で読みます。森鷗外の『即興詩人』の初版は4号活字で組んだそうで、私もどこかで4号活字くらいのものを出してくれないか、そうしたらゆっくり読んで楽しめるだろうな、と思いました。どこも出してはくれませんでした。（おことわりしておきますが、私の目は健全で、これまでに一度も眼鏡をかけたことはありません。）目玉「理論」のヨコ組み論者は、教科書がヨコ組みで⁽³⁾シショウのないことを、タテ組み否定の一つの論拠にします。このごろでは、子どもの絵本にヨコ組みのものが生れたことも、論拠にしています。これらは、みな大きな活字を使っているために、視野に映ってくる単語の数もすくなくて、それで読みづらさもさほどではないというだけのことです。8ポイントヨコ組みの学術雑誌の論文が、読みづらいことはいうまでもありませんが、目玉「理論」のヨコ組み論者は、論文の内容がむずかしいから読みづらいのだと、内容の側に理由を押しつけることでしょう。

問一

傍線部(1)～(3)の片仮名の部分と同じ漢字を使うものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

(3) シ|シヨウ

- 1 社会にホウシ|する
- 2 シ|セイの人々
- 3 シュウシ|が合う
- 4 シヨクシ|が動く

いずれにしても、吉川英治の『鳴門秘帖』や『宮本武蔵』、大佛次郎の『鞍馬天狗』や『ごろつき船』、山本周五郎の『樅ノ木は残った』や『虚空遍歴』などを、文庫版のヨコ組みにして出版したところで、大衆から見むきもされないだろうくらいなことは、出版社でも充分承知しています。ヨコ組み論者がどんなに「理論」的に夕テ組みを否定しても、保守的だといデオロギー的に攻撃しても、日本語の印刷物から夕テ組みが姿を消してしまふようなことはありません。ただし、「革新政権」と称するものが生れたとき、ヨコ組み論者の目玉「理論」にひきずられて、「すべての印刷物はヨコ組みにしなければならぬ」という法律をつくる可能性も、ないではないのですから、そういうことが起らないようにFいまのうちから努力していくことが必要だと思います。

(三浦つとむ『日本語はどういう言語か』。ただし、本文に一部省略がある。)

問七

傍線部F「いまのうちから努力していくことが必要だと思います」にはどのような筆者の思いが込められているか。最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 有名作家の文庫本でさえもヨコ組みのほうが読みやすいという人が増えるかもしれない、新たな政権がそのような流れに歯止めをかけないのであれば、タテ組み擁護のための活動をこれからも継続していこうと思っている。

2 有名作家の文庫本が将来ヨコ組みになることはないだろうが、新たな政権がヨコ組み論者にそそのかされてタテ組みを廃止する法律を作るかもしれないので、日本の伝統的なタテ組みを継承していく責任を感じている。

問七

傍線部F「いまのうちから努力していくことが必要だと思います」にはどのような筆者の思いが込められているか。最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

3 有名作家の文庫本でさえもヨコ組みにしようとする出版社が現れるかもしれず、政権が代われればそのような論調に人びとが踊らされる可能性もあるので、日本語におけるタテ組みの利点をもっと皆に広める必要性を感じている。

4 有名作家の文庫本がヨコ組みになっても誰も読もうとはしないだろうが、新たな政権がタテ組み廃止を唱えないとも限らないので、日本語からタテ組みが排除されるはならないことを皆にしっかり認識してほしいと思っている。

問八

本文の内容と合致しないものを一つ選び、マークせよ。

1 実際にタテ組みよりもヨコ組みのほうが読みづらいので、多くの人は目玉「理論」のヨコ組み論者に賛同してはいない。

2 文庫本がヨコ組みになっていないのは、出版社が目玉「理論」に納得していないからである。

3 ヨーロッパの言語と日本語とはその特徴が全く異なり、活字の組み方にもその特徴が反映されている。

4 視野に映っている単語の数が多くなると読みづらくなるのは、タテ組みでもヨコ組みでもおこる問題である。

問九

この文章を評したものとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 はじめにヨーロッパの影響でヨコ書きが導入された経緯について触れ、続いてそれを全面的に肯定する人たちに對して問題点を指摘する。次に、読む作業において必要な人間の認知作業や英語と日本語の比較を通じ、タテ組みの優位性が揺るがないことを主張しつつも、最後にわずかではあるがタテ組み消滅の危機感を表明している。

2 はじめにヨコ書きが導入された歴史について述べた後に、それを全面的に肯定する「理論」に對して格言を用いて反論する。次に、読む作業において解剖学的な知見を導入する必要性や英語と日本語の比較を通じ、タテ組みの読みやすさを主張しつつも、最後にタテ組み消滅の危機感も表明している。

問九

この文章を評したものとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

3 はじめにヨーロッパの影響でヨコ書きが導入された経緯について触れ、続いてそれを全面的に肯定する「理論」に対して日本語の英語との違いから問題点を指摘する。次に、読む作業において多くの文字を認知する必要性と文字の大きさの重要性を論じ、タテ組みの保持継続を主張しつつも、最後にタテ組み消滅の危機感を表明している。

4 はじめにヨコ書きが導入された歴史について述べた後に、それを全面的に肯定する「理論」に対して格言を用いて反論のきっかけにする。次に、読む作業において英語から導入されたヨコ書きをそのまま日本語に当てはめることへの問題点を論じ、タテ書きの読みやすさを主張しつつも、最後にタテ組み消滅の危機感も表明している。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

筆者は、イタリアの著名な作家ナタリアギンズブルグの作品『ある家族の会話』を日本語に訳すことになっていた。ある日、ナタリアの「いとこ」だという友人の女性を通じて、ナタリアその人に会う機会を得る。筆者が最初にナタリアの作品を読んで十年余りの歳月が過ぎていた。その友人宅で、初対面の二人は友人とその家族を忘れるほどに話し込んでしまう。

ナタリアは源氏物語について、なにもかも私に訊いておきたがった。私は、もちろん、『ある家族の会話』について、百ほどたずねたいことがあった。あら、こんなにおそくまでおしゃべりしちゃって、ごめんなさい。

「いここ」にあやまりながらナタリアが立ち上ったとき、はじめて私は、彼女が、どうみても彼女らしくない、ひどく気どった黒い縁なし帽子をかぶっていたのに気づいた。

それからは私がローマに行くたびに、ナタリアに手紙で知らせたり、行ってから電話をかけたりして、カンポ・マルツイオ二番地の彼女の家をたずねた。はじめて会ったころすでに「有名人」だった彼女は、その後、劇作品にも手を染めるようになって、そのいくつかは劇場で成功裡に上演された。文化功労者として上院議員に選ばれ、電話をかけると、ええ、その時間なら上院から帰ってるから、いらっしやいよ、ということもあった。

それでも、エイナウディ社のブレイン／編集者でありつづけ、私がおなじ出版社にたのまれてイタリア語に訳した川端康成の『美しさと哀しみと』のテキストには、白分で手を入れる時間まで割いてくれた。

ごめんなさい、イタリア語がどこかぎこちなく思えた箇所を、いくつかなおさせてもらったの。遠慮しいしいそういってあやまる彼女を、A 私はびっくりして眺めた。さいごまで 注1) FUで呼びあうことがなかったことからわかるように、私たちは、親しいという問柄ではけつしてなかったけれど、私にとっては、ありがたい、そしてなつかしい ア 先達だった。

その年、幸運な二度目のローマ行きが実現するひと月まえの十月の九日に、ナタリアは死んだ。友人の電話でそのことを知ったとき、B ずっと 耳底にあった音楽がひとつ消えたような、見なれた木立の一本がふいの大風に倒れた気がした。と同時に、彼女がいなくなったことは意識のなかにしっかりと根を下ろしたはずなのに、ローマと東京という距離に阻まれて、現実感は薄かった。

(注) 1 セイイタリア語において親しい関係で使われる二人称単数の主語。

問二

傍線部A「私はびっくりして眺めた」のはなぜか。最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

- 1 訂正してくれるときのナタリアの態度が、大作家という名声にふさわしくない頼りなさだったから。
- 2 大作家のナタリアなら自信をもって訂正してくれると思っていたのに、その期待が裏切られたから。
- 3 自分の訳には自信をもっていたのに、ナタリアの指摘によってその自負心が揺らいでしまったから。
- 4 訳を訂正してくれたナタリアの態度には、自分が大作家であるという意識が感じられなかったから。

問一

傍線部(ア)～(ウ)の本文中の意味として最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

(ア)先達

- 1 本来あるべき理想を体現する人
- 2 これからもずっと追いつけない人
- 3 手本となって導いてくれる人
- 4 いつかは追い抜かねばならない人

問三

傍線部B「ずっと耳底にあった音楽がひとつ消えたような、見なれた木立の一本がふいの大風に倒れた気がした」という表現を説明したものとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 ナタリアの死があまりにつらいものであったので、それを直接表現せずにこのような比喻を用いて和らげている。

2 亡くなったナタリアが自分にとってどういう存在であったかを、このような比喻を用いて文学的に表現している。

3 偉大な作家であったナタリアの死に際し、彼女にふさわしい文学的比喻を用いて哀悼の意を表そうとしている。

4 すぐれた文学的感性をもっていたナタリアなら使ったであろう比喻を用いることで、彼女の死を美的に表現している。

その日、カンポ・マルツイオの広場を通りかかって、あの黄色い壁の邸が目にはいったとき、彼女の死が、明確な事実としてとつぜん私を襲った。道路からも見える、鉄製のたよりない手すりのついた、白い大理石の階段を幾折れも登りつめたところにある彼女のアパートメントのベルを鳴らしても、羞しそうに迎えてくれる彼女はもういないのだという考えが不意にあたまをよぎり、そのことに胸をつかれて、私は立ちどまった。彼女の死に衝撃をうけるほど、自分と彼女とのあいだに親密なつきあいがあったわけではなかった。そう思ってはみても、どうしようもない喪失感が、ほとんど私の意志とは関係なく、大切な本につけてしまったとりかえしのつかないインクのしみのように、私のなかに、黒い翳りをひろげていた。

四月に彼女を訪れたときのことが、つきつきと思い出された。何度か訪問するうちにいつか愛着をおぼえるようになっていた彼女の家の、あらゆる壁面をうずめていた本棚にもテーブルの上にもそしてときには床の上まで書物があふれた天井の高い宏壮な客間。あの日、ドアを開けてくれたのが、いつもの小柄なお手伝いさんではなくて、彼女自身だったことも、それまでとは遅っていた。コーヒーも、お手伝いさんではなくて、彼女が自分で淹れてくれた。明るいキッチンまで彼女のあとをついて行くと、小さなエスプレッソのコーヒー沸しから銀のポットにコーヒーを注ぎながら、彼女はまるで他人事みたいに小声でいった。十二月に、大病をしたの。もうすっかり元気ですけれど。

コーヒー沸しの柄が熱いので、彼女は着ているカシミヤの黒いセーターの袖をひっぱって、それを鍋つかみのようにして手をくるんでいた。縁なしの黒い帽子を思い出しながら、私は手伝おうか、どうしようかとためらっていた。

でも、あの日、ナタリアはけっして「すっかり元気」などではなかったのだ。発病は六月だったと、やがてローマから送られてきた新聞にはあったけれど、あの日のナタリアはそれまでになく疲労の色が濃いのが、私にははっきり感じられた。それなのに、私にむける視線の弱さを年齢のせいにして、自分の感覚がさぐりあてた不吉な印象よりも、彼女の「すっかり元気」を信じてしまったのだった。そして、ローマにさえ来れば、またいつでも会える、と軽い気持で別れをつげ、あの白い大理石の階段を小走りに駆けおりたのだったが、^cそのことが、十一月の雨の道で、突然、うとましかった。

問四

傍線部C「そのことが、十一月の雨の道で、突然、うとましかった」とはどういうことか。最も適切なものをつ選び、マークせよ。

1 ナタリアの体調が悪いということを何とはなしに気がついてきたにもかかわらず、自分はそれを見ないふりをしていた。いつでも会えると信じていたそんな愚かな自分に嫌気がさした。

2 ナタリアの体調が悪いことは頭ではよくわかったが、現実を直視することが恐ろしくて大丈夫だと自分に言い聞かせてきた。そんなずるい自分に腹が立ってしやうがなかった。

問四

傍線部C「そのことが、十一月の雨の道で、突然、うとましかった」とはどういうことか。最も適切なものをつ選び、マークせよ。

3 ナタリアと最後に行ったとき、彼女はそれとはなしに自分の体調がすぐれないことを伝えていた。それに気づかないふりをしていた卑怯な自分を軽蔑するほかなかった。

4 ナタリアはあのかたき二人が会えるのはこれが最後になるであろうことを間接的に自分に伝えていた。その意図に気づかず彼女のもとを去ってしまった鈍感な自分が恥ずかしかった。

もう二度と、ナタリアの声を聞くことはないのだし、あの階段を上がることもないだろう。雨のカンポ・マルツイオ広場で、私は重い現実を支えきれないでいた。いまとなつては、あの日、ナタリアのおぼつかない手もとから敷き皿にあふれたコーヒーの色までが惜しまれて、かなしかった。書くという私にとって息をするのとおなじくらい大切なことを、作品を通して教えてくれた、かけがえのない師でもあったナタリアへの哀惜に、雨降りの歩道で、私は身も心もしぼむ思いだった。

雨のなかを、私は、もういちど、カラヴァッジオを見に行くことにした。あの絵が、萎えた気持をなぐさめてくれるかもしれない。四月の雨の日に訪れて以来、とうとう、サン・ルイージ・デイ・フランチェージ教会を再訪する機会はなかった。あの日、どうしてあの絵をもつとゆっくり見ておかなかったのかと、心残りでもあった。あの翌日の午後も、そのつぎの日にも、扉はかたく閉まっていた。

問五

傍線部D「私は重い現実を支えきれないでいた」とあるが、このときの筆者の気持ちを説明したものとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 この建物の住人であったナタリアはもうここにはいない。人は皆死すべき存在であるから、彼女もいずれはこの世からいなくなるということは以前からわかっていたが、それが現実になったとたん、その喪失感の大きさに圧倒されてしまった。今は主のいなくなったこの建物を見ることは耐え難くつらいものである。

2 ナタリアの住むこの建物は、ローマにおいていつも自分を迎えてくれる数少ない場所であったが、今は冷たく自分を拒んでいる。この場所が自分とローマを結びつけてくれるいかに重要な存在であったのか、はじめて認識できた。彼女の死と同時に、この建物が何の意味もない場所となったのは耐え難くつらいものである。

問五

傍線部D「私は重い現実を支えきれないでいた」とあるが、このときの筆者の気持ちを説明したものととして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

3 ローマに来れば当たり前のようにこの建物の中に入ってナタリアと会い、いろいろなことを話し教えを乞うことができると思い込んでいた。しかし彼女がいなくなった今、この建物は自分にとってもはや足を踏み入れることのない空間に変貌してしまった。その現実がもたらすつらさは耐え難いものである。

4 この建物はナタリアという人物と切っても切れない存在であり、ここに来さえすれば彼女が自分を親友のようになんか暖かく迎え入れ、楽しい時間を過ごせると思い込んでいた。しかし、彼女がいなくなった現在、永久に閉ざされた空間となって自分を拒絶している。その現実がもたらすつらさは耐え難いものである。

問一

傍線部(ア)～(ウ)の本文中の意味として最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

(イ)おぼつかない

1 みつともない

2 年老いた

3 とまどいがちの

4 頼りない

まだ早い時間のせいかな教会のなかには旅行者のすたもなく、がらんとした薄闇だけが沈黙につつまれていた。用意したコインをつぎつぎと箱に入れて、こんどこそ思いのままに時間がすごせるはずだった。

右手の戸口から入ってきたキリストが、しなやかに手をのばして収税人のマッテオを指さしている。イエスの顔はほとんど闇のなかにあって、それが彼とわかるのは、糸のように細い光の輪が頭上に描かれているからにすぎない。収税人マッテオは、私が最初、勘ちがいしたように、光を顔に受けた少年ではなくて、その横に、え、あなたに私に話しかけてるのですか、というふうに、自分の胸を指さしている中年の男だ。マッテオは、「人に好かれなかった」と聖書にあるのだが、それにしては、かなり「ちゃんとした」平凡な人物に描かれていた。

レンブラントやラトウールに先立って、E光ではなく、影で絵を描くことを考えついたとされるカラヴァッジオの絵を見ていて、私は、キリストの対極である左端に描かれた、すべての光から拒まれたような、ひとりの人物に気づいた。男は背をまるめ、顔をかくすようにして、上半身をテーブルに投げ出していた。どういうわけか、そのテーブルにのせた、醜く変形した男の両手だけが光明に描かれ、その手のまえには、まるで銀三十枚でキリストを売ったユダを彷彿させるような銀貨が何枚かころがっていて、彼の周囲は、深い闇にとざされている。

問六

傍線部E「光ではなく、影で絵を描くことを考えついたりされるカラヴァッジオの絵」とあるが、この絵によって筆者は何を示そうとしているのか。最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 カラヴァッジオという画家は、キリストとユダに代表される善と悪という二つの面をあわせもっていた。理想的芸術家は、皆彼のように光と影が交錯する二面性を有することが不可欠なのである。

2 カラヴァッジオという画家は、キリストとユダに代表される善と悪の二つの面をあわせもっていた。人間も、皆彼と同じように光と影という二面性をもつ存在であることを忘れてはならない。

問六

傍線部E「光ではなく、影で絵を描くことを考えついたりされるカラヴァッジオの絵」とあるが、この絵によって筆者は何を示そうとしているのか。最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

3 カラヴァッジオという画家は、顔に光を受ける少年と闇に沈んでいる男が表現する二つの顔をもっていた。今眼前にある作品は、まさにこのような彼自身の二面性の反映に他ならないのである。

4 カラヴァッジオという画家は、顔に光を受ける少年と闇に沈んでいる男が表現する二つの顔をもっていた。今眼前にある作品は、影の力が光を打ち負かすことによって生まれたものなのである。

カラヴァッジョだ。とっさに私は思った。ごく自然に想像されるはずのユダは、あたまになかった。画家が自分を描いているのだ、そう私は思った。伝承によると、この画家は一種の性格破綻者というのか、ときにひどく乱暴な行為に出た人であつたらしく、作品の高い芸術性はみなに認められながらも、仲間にとまれ、そのためにしばしば仕事をもらえないで、ついには、人を傷つけたのだったか、殺してしまったのか、まるで即興詩人やスタンダードの物語の登場人物さながら、北イタリアからローマに追放されたのだという。そのあとも、さらにナポリに、はてはマルタ島からシチリアへと逃げたことが、方々に残された作品から推理されている。でも、異様に変形した手がすべてのような男を、カラヴァッジョが安易に性格的な自画像としてえがいたはずがないようにも、私には思えた。もしかしたら、顔に光をあつめたような少年も、おなじふうには自画像なのではないか。ふたりの人物のあいだに横たわる奈落の深さを知っているのは、画家自身だけだ。

左端にえがかれた人物は闇にとざされていながら、ふしぎなことに、変形した、醜悪なふたつの手だけが、光のなかに置かれている。変形はしていても、醜くても、絵をかく手だけが画家に光をもたらすものであることを、カラヴァッジョは痛いほど知っていたにちがいない。

あいかかわらず、二百リラ分の照明が切れるたびに、あわただしくつぎのコインを入れなければならない。ちょうど照明が継目にかかったとき、ぴたぴたとにぎやかな小さい足音がして、小学生の一群が若い男の教師に引率されてはいつてきた。まだ画学生のようにみえる若い教師が絵の説明をするのを、子供たちは神妙に聴いている。

問一

傍線部(ア)～(ウ)の本文中の意味として最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

(ウ)神妙に

- 1 かしこまって
- 2 固くなって
- 3 うやうやしく
- 4 がまんして

そのうちに、私は奇妙なことに気づいた。照明が消える
と、教師は、そっぽを向いたままで、私がコインを入れ
るのを待っているのだ。そして照明がもどると、また了
供たちに説明をはじめた。なにやら鼻白んだ気持で、私
はその場を離れることにした。すると、もうひとつ、奇
妙なことが起った。私の近くにいた何人かの子供が、お
ばさん、ありがとう、と小声でいったのだ。知らんぷり
をしつつける教師と、ていねいにお札をいう子供たち。

そのとき、とつぜん、^F直線の^(注2)ヴァリア・ジュリアと
曲りくねった中世の道が、それぞれの光につつまれて、
記憶のなかでゆらめいた。どちらもが、人間には必要だ
し、私たちは、たぶん、いつも両方を求めている。白い
光をまともに受けた少年と、みにくい手の男との両方を
見捨てられないように。

(注) 2 ヴァリア・ジュリアローマにある通りの名前。

問七

傍線部F 「直線のヴィア・ジュリアと曲りくねった中世の道が、それぞれの光につつまれて、記憶のなかでゆらめいた」という表現を説明したものとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 自分が入れたコインでカラヴァッジョの絵を見ることができたことに素直にお礼を言う子供たちと、黙って知らんぷりする教師を目にしたあと、筆者の記憶に突然浮かんだ「直線のヴィア・ジュリアと曲りくねった中世の道」というイメージが挿入されることで、二種類の人間の差が一層際立つ結果となっている。

2 自分が入れたコインでカラヴァッジョの絵を見ることができたことに素直にお礼を言う子供たちと、黙って知らんぷりする教師を目にしたあと、筆者の記憶に突然「直線のヴィア・ジュリアと曲りくねった中世の道」というイメージが浮かんだことによって、直前の体験が好悪を超えた次元に移しかえられている。

問七

傍線部F 「直線のヴィア・ジュリアと曲りくねった中世の道が、それぞれの光につつまれて、記憶のなかでゆらめいた」という表現を説明したものとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

3 自分が入れたコインでカラヴァッジョの絵を見ることができたことに素直にお礼を言う子供たちと、黙って知らんぷりする教師という人間の二つの側面を、自分の記憶にある「直線のヴィア・ジュリアと曲りくねった中世の道」というイメージに置き換えることで、この体験の美しい部分だけが印象づけられている。

4 自分が入れたコインでカラヴァッジョの絵を見ることができたことに素直にお礼を言う子供たちと、黙って知らんぷりする教師という人間の二つの側面を、自分の記憶にある「直線のヴィア・ジュリアと曲りくねった中世の道」というイメージに重ねることによって、両者の間の差異を和らげようとしている。

教会の外は、あいかわらず雨だった。雨のなかを歩きながら、私はもうすこし、絵のなかの男について考えてみたかった。犯した罪の意識と仕事に浸蝕され、変形したあの手は、やはりカラヴァッジョ自身の手がちがいない。なんともあてずっぽうな推測だったが、私は確実にになぐさめられていた。醜い自分の手を、ミケランジェロの天地創造の手を意識において描いたといわれるキリストの美しい手の対極に置いて描きおせたとき、彼は、ついに、自己の芸術の極点に立つことができたのではなかったか。

ふと、寒さにこごえたようなカラヴァッジョの手のむこうに、四月、それが最後になった訪問のときコーヒールを注いでくれた。ナタリア・ギンズブルグの、疲れたよわよわしい手を見たように思った。鍋つかみのかわりにした黒いセーターの袖のなかで、老いた彼女の手はどうしようもなくふるえていて、こぼれたコーヒールが、敷き皿にゆっくりとあふれていった。

(須賀敦子『トリエステの坂道』)

問八

傍線部G「私は確実になぐさめられていた」のはなぜか。最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 カラヴァッジョの絵のなかの変形した手は、キリストの美しい手の対極にあり、確かに醜いものである。しかし、彼の芸術は、この二つの手が象徴するように、美と醜という両面を知ることによって生まれたものである。この醜い手を得たことによって、彼の芸術は最局点に達したのである）それがわかったとき、悲しみに沈んでいた私の心は軽くなった。

2 カラヴァッジョの絵の中の変形した手は、キリストの美しい手の対極にあり、確かに醜いものである。しかし、芸術家として満足のいく作品を描くには、醜い世界にも足を踏み入れなくてはならないことを彼はよくわかっていた。あの醜い手は、彼のそのような波乱の人生の象徴なのである。それがわかったとき、悲しみに沈んでいた私の心は軽くなった。

問八

傍線部G「私は確実になぐさめられていた」のはなぜか。最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

3 カラヴァッジオは、ミケランジェロの作品を念頭に
おいて、この絵のキリストの美しい手を描いたといわれ
る。彼の芸術家としての人生の目標は、偉大なミケラン
ジェロと同じ高みに到達することであった。この絵の醜
い手は、彼がミケランジェロに匹敵する芸術家となりえ
た証拠である。それがわかったとき、悲しみに沈んでい
た私の心は軽くなった。

4 カラヴァッジオは、ミケランジェロの作品を念頭に
おいて、このキリストの美しい手を描いたといわれる。
自分の醜い手を意図的に対極において描くことで、偉大
なミケランジェロに挑戦したのである。あの醜い手は、
そのような彼の芸術家としてのあくなき戦いを象徴する
ものである。それがわかったとき、悲しみに沈んでいた
私の心は軽くなった。

問九

この文章を説明したものとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 まずナタリアとの思い出と突然の別れについて、時間の流れに沿って起きたことを淡々と描写しながら、次第にカラヴァッジョにまつわる話題に移行する。最後に、カラヴァッジョの醜い手とナタリアのよわよわしい手を対比させることで、創作する者としての両者の差異が明らかになるのである。

2 前半ではナタリアとの思い出と突然の別れについて語られ、後半では悲しみを癒やすために偶然訪れた教会で見たカラヴァッジョにまつわる話題に移行する。最後に、カラヴァッジョの醜い手を記憶のなかに残るナタリアのよわよわしい手と重ねることで、文学と絵画芸術の親近性が暗示されているのである。

問九

この文章を説明したものととして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

3 まずナタリアとの思い出と突然の別れについて、時間の流れに沿って起きたことを淡々と描写しながら、本来描きたかったカラヴァッジョにまつわる話題へと移行する。最後には、彼の醜い手と記憶に残るナタリアのよわわしい手を対比させることで、創作する者としてのカラヴァッジョの優越性が明らかとなるのである。

4 前半ではナタリアとの思い出と突然の別れについて語られ、後半では悲しみをまぎらわすために訪れた教会のカラヴァッジョの絵にまつわる話題に移行する。最後には、記憶に残るナタリアのよわわしい手とカラヴァッジョの醜い手が重ねられることによって、創作することによって人生を捧げた両者の共通点が暗示されるのである。

【三】

次の文章は江戸時代の歌人井上通女が讃岐国から江戸に旅をした際の紀行文の一節である。これを読んで、後の問いに答えよ。

二十五日、まだ夜深く出でぬ。(注1)続松ついでまつともして行

くに、大路ははだれに、雪今も降る。二里にりばかり行き

て、夜もほのぼのと明けぬ。松の上などはXさらなり、

刈り田のあと、あやふき家の垣さへいとをかしと見

ゆ。このもかのも、ただ白妙しろたへなるが、朝の光にまじは

りあひたる、たとへんかたなく、我が世の外ほかに行く心

地す。古郷ふるさとにてはまれなる雪ぞかしと、めづらかなる

ものから、従者すうの足元あしもといかに冴さゆらんと、厭いとはしくて、
とく晴れよかしと思はるる。(注2)已み過ぐる頃、雪やみ

て、日はなやかにさし出でたれば、道もいととく乾き

ぬ。A皆々よろこびて行く。

問一

傍線部X、Y、Zの現代語訳として最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

X さらなり

1 もちろんのこと

2 なおさらのこと

3 真新しく

4 もつと多く

問二

傍線部A「皆々よろこびて行く」と描写した作者の気持ちを説明したものととして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

- 1 雪に朝日の射すさまがこの世のものではないように見えて恐ろしく思っていたが、雪がやんでよかった。
- 2 故郷ではめったに降らない雪を見て皆が不吉に思っているだろうと心配していたが、雪がやんでよかった。
- 3 雪で道が隠れて旅の進行が遅れてしまうと心配していたが、雪が解けて旅に遅れが出ずにすんでよかった。
- 4 積もった雪で皆の足が冷たいだろうと案じていたが、道が乾いて皆が冷たい思いをせずにすんでよかった。

(注3)申の時過ぐるほど、桑名より船に乗る。暮れ

かかりて星の光あざやかになるに、黒き雲むらむら
ただよふ。人々、「このわたり風吹けば、あやふし」と
て、空を見つつこがれ行く。我は何事もいさしらず、
ただ人の言ふを聞き臥せり。風も出で来ず、いとのと
かにて、(注4)子の時ばかりに熱田に着く。やがてもの
したためなどして、宿を出で行く。まだ夜深ければ、

何方も見えず。鳴海、矢作など言ふを聞き過ぎぬ。

夜明けていとよく晴れわたりたるに、昨日の雪にや

甲、向かふなる山の峰々いと白く見ゆ。「(注5)八橋

はここわたりとこそ聞きつるに」と言へど、従ふもの

ども、「さうけたまはりしは、一里ほどあなたに、沢

は畑のやうになり、橋は杭ばかり残りて、杜かきつばた若もいづ

ち往いにけん、ゆかりの色もなければ、御覽ごらんずべくもな

し」と言ひしが、さる跡こそ、なほゆかしけれと思へ

ど、Bかく言へば見ずして過ぎ行きぬ。

問三

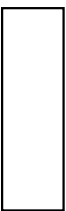
空欄 に入る語句として最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

- 1 ありき
- 2 ありしか
- 3 あらん
- 4 あらめ

問四

傍線部B「かく言へば見ずして過ぎ行きぬ」の説明として最も適切なものを一つ選び、マークせよ。なお、この

箇所は以下の



内に示す『伊勢物語』第九段

「東下り」の内容を念頭に置いて記されている。

三河の国八橋といふ所にいたりぬ。そこを八橋といひけるは、水ゆく河のくもでなれば、橋を八つわたせるによりてなむ、八橋といひける。その沢のほとりの木のかげにおりて、かれいひ食ひけり。その沢にかきつばたいとおもしろく咲きたり。

問四

傍線部B「かく言へば見ずして過ぎ行きぬ」の説明として最も適切なものを一つ選び、マークせよ。なお、この箇所は以下の 内に示す『伊勢物語』第九段「東下り」の内容を念頭に置いて記されている。

1 『伊勢物語』で有名な八橋が近くにあると聞いた作者が様子を尋ねたと』ろ、その場所はすっかり様変わりして沢も橋も杜若もなくなったので見るべきものはないと言われ、そのように変貌した様子を見たいと思いながらも通り過ぎた。

2 『伊勢物語』で有名な八橋が近くにあると聞いた作者が様子を尋ねたところ、その場所はすっかり様変わりして沢も橋も杜若もなくなったので見るべきものはないと言われ、そんなことではかえって興ざめだと思って見ずに通り過ぎた。

問四

傍線部B「かく言へば見ずして過ぎ行きぬ」の説明として最も適切なものを一つ選び、マークせよ。なお、この箇所は以下の 内に示す『伊勢物語』第九段「東下り」の内容を念頭に置いて記されている。

3 『伊勢物語』で有名な八橋が近くにあると供の者が人に聞いてきたが、その場所はすっかり様変わりして沢も橋もなくなり、杜若だけが昔と変わらず花を咲かせているそうだ、などと言い合っているうちに見ずに通り過ぎてしまった。

4 『伊勢物語』で有名な八橋が近くにあると供の者が人に聞いてきたが、その場所はすっかり様変わりして沢も橋もなくなり、杜若だけが昔と変わらず咲いていることを知っていたので、作者は見るべきものはないと教えて通り過ぎた。

岡部^をを過ぎてくるほどに、竹のあるもとに、^Yいと
けなき子ども集まりて、遊びみたるを見て、

うきふしもまだ知らなくに竹の子のよよとは何を

泣くねなるらん

赤坂^{あかさか}に泊まりぬ。^Zうちとけ寝られざりければ、

^Cふしわびぬ宵々ごとの宿かりて夢も結ばぬ^(注6)

草の枕に

(『東海紀行』による)

(注)

1 続松―松明。たいまつ。

2 巳―午前十時頃。

3 申の時―午後四時頃。

4 子の時―午前零時頃。

5 八橋―愛知県の地名。『伊勢物語』「東下り」の段
に登場する旧跡。

6 草の枕―旅寝のこと。

問一

傍線部X、Y、Zの現代語訳として最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

Y いとけなき

1 はしたない

2 あどけない

3 みすぼらしい

4 初々しい

問一

傍線部X、Y、Zの現代語訳として最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

Z うちとけ

1 安心して

2 気を遣って

3 落胆して

4 仲良くなって

問五

傍線部Cの和歌「ふしわびぬ宵々ごとの宿かりて夢も結ばぬ草の枕に」で作者が伝えようとしていることとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

- 1 一夜ごとに違う土地で宿を借りるので眠りが浅くなり、さまざまな夢を見るといふ旅の不思議さ。
- 2 一夜ごとに違う土地で宿を借り、夢を見るひまもないほど早く起きて出発するといふ旅の忙しさ。
- 3 一夜ごとに違う土地の違う宿に泊まるので眠りにつきにくく、夢を見ることもないといふ旅の大変さ。
- 4 一夜ごとに違う土地の宿に泊まる毎日は新鮮で、夢も見ずにぐっすり眠ってしまうといふ旅の楽しさ。

問六

『伊勢物語』の主人公の「男」であると考えられていた人物名を一つ選び、マークせよ。

- 1 紀貫之
- 2 西行法師
- 3 在原業平
- 4 平貞文

受講に興味をお持ちの方は

info@veritas.bz または info@v-a-l.jp までお問い合わせ下さい。

